

読者コーナー「ホッとtime」

「読者コーナー・ホッとtime」は、皆読者の皆さんから投稿していただくコーナーです。読みながら、ホッとした時間をお過ごしいただければと思います♪♪

私の座右の銘

『森は海の恋人』

森と川と海は、目には見えにくくとも、確かにつながっています。

『牡蠣の杜を慕う会(気仙沼市唐桑町) 畠山 重篤(創始者)』

昭和六十二年八月より、地元宮城に帰り、社会福祉協議会で仕事をしてきた私ですが、平成初期からNPO活動が活発になり、自然環境を守るための牡蠣養殖業者の話を聞く機会があり、その運動内容・説明が、なるほど!と深く心に刺さりました。

学問としての生物や化学は、あまり得意ではなかったのですが、「室根山の広葉樹林の落ち葉を通った栄養分のある天水が、川を下って、唐桑湾に流れ出て、その栄養分の豊富な水が牡蠣をおいしく育てる。おいしい牡蠣養殖のため海を考えるときは、山に植林をし、森を豊かにしなくてはいけない。」といった自然のつながりの大事な摂理を守るのは、人間の責任だよ!と教えてくれた言葉です。

「ぱれっと」での人のつながりは、四十年たった現在でも、とても大切なものとして残っています。

みんなが恋人ですね!

高橋賢一(たまり場ぱれっと初期の運営委員)



ぱれっと写真館★

と～っても見にくい写真ですみません。これは1985年4月号のぱれっとつうしん。おかし屋ぱれっとの開所を伝える記事が掲載されています。当時のつうしんは、すべて手書きで作られていました。当時クッキーの値段は100g入り280円。記事の中で『おかし屋ぱれっとが目指すこと』には、「製造から販売まで障害者自身が加わることができる作業所」、そして「将来独自に店を持つこと」という記載が。40年をこえ、創業当時の想いをしっかりと受け継いでいるおかし屋ぱれっとです。(編集部)

ぱれっとつうしん 4

発行責任者 谷口 恭彦
「おかし屋ぱれっと」開所式 盛況に行われる?
去る4月7日(木)に、施設作業所に「おかし屋ぱれっと」の開所式が盛況に執り行われ、約100名が参加しました。開所式の模様は、このつうしんに掲載されています。作業所づくりの経過が、この号の裏面から読み取ることができます。この開所式は、施設作業所とつながり、新たな一歩を踏み出した。おかし屋ぱれっとの未来と希望を、このつうしんに掲載しています。



また、準備を進めていく中で、新たな課題が生じました。販売方法等、これから課題も残ります。しかし、販売方法については、すでに決まっています。製造から販売までの作業に携われることが、作業所という希望です。作業所づくりの経過は、早くに作業所ができて、その後の経過期間に止まらず、開所後の運営体制や継続的に進めることとして、その後の運営を進めていく予定です。障害者と地域をつなぐ、おかし屋ぱれっとの未来と希望を、このつうしんに掲載しています。おかし屋ぱれっとの未来と希望を、このつうしんに掲載しています。



●「読者コーナー・ホッとtime」では、皆様の投稿を大募集!

応募は、FAX(03-3409-3790)または palette@npo-palette.or.jp まで。

(編集部)